

## ～秋の花木～



ジウガツザクラ 十月桜

バラ科・落葉小高木・園芸品種

白やピンクの八重咲きの花が10～12月と翌年の春に咲き、冬に咲く花は少し小さい。サクラ類のなかでも巨木化しない性質がある。



倒木は何故か夜間や休日に起きるのが多いと感じるのは気のせいかな…街路樹・ケヤキの一例

# どうして倒木 するのですか？

一言で言ってしまうえば、樹木自体が自立出来なくなってしまうからですが、理由や原因を見てみたいと思います。

国土交通省が昨年末に発表した資料では平成30年から令和4年の5年間に全国の街路樹が平均で年間約5、200本倒木しています。そのうち強風等による自然災害が約7割、残りは根の腐朽ほか、それ以外の原因とされています。この数字は道路沿いの街路樹に限ったもので、公園や学校、事業所、住宅等の発生分を含めた場合、全国で年間相当数の倒木が発生していると考えられます。

かつて倒木は、台風などによる自然災害だから仕方がないという認識がありました。木の健康面にも着目して倒木事故を防止する考え方や方法が平成初期のころから東京都の街路樹診断事業の広がりなどにより意識され始めました。

冒頭で一言では樹木自体が自立出来なくなってしまうから倒れると書きましたが、その原因は主に次の点が考えられます。樹木は地中に根を張り樹体を保持しますが、強風や大雪など外部からの負荷が強すぎて、根の保持力を超えてしまった時に倒れます。また、根元や幹の一部が腐朽・軟腐化し、そこに限度を超えた負荷がかかると、折れてしまいます。

身近な樹木の倒木を防ぐには、剪定による風圧の軽減、根がしっかりと張れる植栽基盤の整備、点検や診断により不健全な樹木の抽出をした後の、剪定・撤去・植替え(伐採・抜根)、支柱設置、などの処置により、倒木のリスクは減らせます。

## 突風

大気が不安定で突風が吹いた日にケヤキが倒れました。強風により、根元からポキッと折れ、倒伏した状況です。

【原因】①結果的に一番の原因は、根元の内部がスポンジ状になるくらい腐朽が進んでおり、樹体の支持力が著しく低下していた。

②大きく茂った枝葉は強風によるストレスを受け流すことが出来ず、腐朽していた根元も耐え切れずに倒木。

【予防策】詳細な樹木診断により根元の腐朽の確認。ぱっと見、元気そうに見える樹木ほど、倒木の危険性を見極めるのは難しい。

## 大雪

10 cm程度の積雪があった日にサクラが墓所に倒れました。着雪の重みで倒伏し、根返りという、根元の土ごと根こそぎ倒れた状況です。

【原因】①根系の伸長不足や腐朽。

②隣接するシラカシの被圧により片枝で重心が偏った樹形となり、そこに雪の重み加わり、耐え切れずに倒木。

【予防策】周辺木も含めた剪定により、バランスの良い樹形の構成。頭でっかちのような樹高が高くバランスの悪い樹木は、樹高をある程度下げ、風や雪など樹木へのストレスを軽減させる。

## 倒木の原因例

見るからに枯れているわけでもなく、そこまで大荒れの天気でもなく、他の樹木は、さほど被害が無かったにも関わらず、倒木した例です



倒れる前の状況 長期間無剪定で枝葉繁茂し、枯枝は多かったが、元気そうであった



風向きなどにより、倒れる方向は変わってくるが、今回建物のガラス等が割れなかった



根元がポキッと折れるように倒れている



根株はスポンジ状に腐朽していた



大胆に倒れているが、幸いにも墓石の倒壊などの被害が無かった



倒木したサクラのすぐ近くにはシラカシが存在して墓所側に枝が広がっていた



根が周囲の土ごと倒れた根返り状態



根元のひこばえは再生のために残した

## 倒木リスクの高かったケヤキのその後

上の2枚の写真は、6月に点検して異常を確認した時のものです  
下の2枚の写真は、翌年2月の強風時に倒木した時のものです



※枯枝や衰弱枝など異常が多かった



※鋼棒が根元にスボスボ貫入した



※根元から折れるように倒れた



※根株はスポンジ状に腐朽していた

## 樹木の不調サイン

生活域に近い樹木は緑陰の提供、大気の浄化、CO2の吸収・固定、雨水の地中浸透、人のストレス緩和など様々な価値をもたらす反面、倒木事故などが起きると身近な脅威にもなるときがあります。

安全で快適な植栽環境のためには、事故につながる可能性のある倒木や幹折れ、落枝などのリスクがある樹木を知る事は大切です。

樹木に不調（障害・被害）がある場合、外見上にサインが出る場合があります。サインが無いから絶対安全、反対にサインがあるからもうダメで伐採しかないと単純に言い切れるものではありません。

不調のサインの中でも比較的分かりやすく、注意が必要なものを下記に記載しましたので、樹木を見る時に意識してみてください。



←ベッコウタケ  
広葉樹の根元に発生し、生きている木に対しても根株心材腐朽を引き起こす腐朽力の強いキノコ。根株の腐朽が進行している場合がある。



←コフキタケ  
広葉樹の幹に発生し、生きている木に対しても幹心材腐朽を引き起こす腐朽力の強いキノコ。幹の腐朽が進行している場合がある。



←開口空洞・腐朽  
空洞や腐朽があればその部分の強度は低下している。特に周囲長の1/3を超える被害は折損するリスクが高くなる。



←樹皮枯死・欠損  
樹木は外側の樹皮の下付近で養水分のやり取りをしているため、衰弱する一因となる場合もある。周囲長1/2を超える被害は重症である。



←枯枝  
人や車が通る所の上にある場合は落枝事故防止の観点から速やかな切除が必要。展葉期に葉が無い、キノコが付いている枝は発見の目安。



←枯死・衰弱  
写真のナラ枯れのように短期間に枯れる場合と、長期間かけ衰弱・枯死する場合がある。いずれにせよ枝折れ、倒木するため処置が必要。



幼虫

wanted!



卵

## チャドクガ、見ませんか？

例年5月～6月、8月～9月の年2回ツバキやサザンカなどに発生し、枝葉を食い荒らし、触ると人間がかぶれてしまうチャドクガの発生をここ2年間で一匹も見えていません。

主に東京・埼玉で仕事をしていて発生が多い少ないといった年の差はありましたが、2年間も見かけないのは初めてです。他の職人さんに聞いてみても「見ないね」といった感じです。

卵・幼虫・成虫（蛾）の全てにおいて、触れると皮膚に数日間かゆみを伴う発疹が出来るため、植木屋泣かせのすごーく嫌われている害虫ですが、どこに行ってしまったのでしょうか。最近、見かけましたか？



### 揺れの確認

直交する2方向から押して根元の揺れや地面の異常を確認する。単純な方法であるが、太い樹木でも稀に揺れる事があり、倒木の危険性を知るには有効である。



### 目視

必須基本作業であり、全体的な樹勢・樹形の状態や周辺状況なども合わせて確認する。また、キノコ、空洞、枯枝など部分的な被害も確認し、記録する。

樹木点検や診断  
上段の記事や左の記事のような視点を基に作業をしています。実施内容は「樹木点検 診断」とパソコンやスマホで検索すると表示される実施方法のマニュアルや動画なども参考になります。点検により枯枝があれば切除する等の処置により事故を未然に防ぐことも出来ます。より深く専門的な確認やカルテがいる場合は、樹木医により診断が必要です。



※台風でバタンと倒れたマツ



※重機等で起こして復旧、根株も活着するように処置

## 倒木復旧できる場合も！

根元に腐朽が無く、根株ごと倒れた場合など、一旦起こして再度植え付ける感じで復旧できる場合もあります。

写真の木は過去台風で2回倒れ、そのたびに起こしています。倒木時の枝葉は茂りすぎです。復旧時には剪定と支柱もしました。



※支柱と剪定をして終了

～当社では障害者、親と暮らすことが出来ない子供たちの施設（社会福祉法人）に皆様から頂いた書類の使用済み切手等を使い、支援活動をしています～